

平成30年1月29日(月)

老球の細道388号

チームケミストリー

会津バスケットボール協会 室井 富仁

20日にIOC(国際オリンピック委員会)は第23回平昌冬季五輪に北朝鮮の参加を、スケート、アイスホッケー、スキージョウの3競技で認める発表をした。韓国の文在寅大統領の意向を組み、五輪を通じて南北の融和を図る狙いでIOCも南北朝鮮の合意を追認した。

大義名分は理解できるのだが、五輪が政治に屈し、北朝鮮による政治宣伝に利用されるのではないかなどという批判が色々聞こえてくる。そして特に気にかかるのは、アイスホッケー女子チームが合同チームで出場することである。

韓国選手が主要メンバーを占め、そこにプラスアルファで北朝鮮選手が加わるチーム構成となるそうだ。そのために、韓国チームの登録選手拡大という特別措置が取られ、他の国からは不公平でないかという批判も出ている。ロシアのドーピング問題では厳格な態度を示したIOCであったが、今回はいかがなものだろうか。北朝鮮選手が加わることによって、韓国の選手で試合出場に影響の出る選手も出てくるだろう。これらの選手のオリンピック出場のために費やした4年間ほどのように補償されるのだろうか。

アイスホッケーはバスケットボールと同じチームスポーツである。長年の合同練習によってチームプレイが身につく。チームスポーツは、チームプレイと選手の起用、戦略、戦術によって「1+1=2」ではなく「1+1=2以上」になったりする。これを「チームケミストリー」という。「ケミストリー」とは「化学」という意味で、一人一人が連携し、化学反応を起こすことにより、1+1が2以上の効果を出すことをいう。

2月9日に五輪が開幕するのに、この短期間でチーム作りなどできるのだろうか。中学校の大会ではなくてかりにも世界最高レベルの五輪である。噂によるとアイスホッケーは韓国も北朝鮮も世界ランキングが下位の方で、メダルを取ることは不可能なので、平和、南北関係改善の引き立て役に利用されたのではないかという。真偽は定かではないが、いずれにせよ、今後の動向を見守っていきたい。何せ今回のようなことが常時通用するようになると五輪の存続自体が危ぶまれるようになる。南北朝鮮のための五輪ではなく、世界のアスリートのための五輪であることを忘れてはいけない。

ところで、チームケミストリーについては先日の会津地区バスケットボールジュニア(中学校)選手権大会でも色々勉強させてもらった。特に、今大会はインフルエンザでレギュラーが出場できないチームがたくさんあり、チームケミストリーの意義が問われる大会となった。レギュラーが抜けても普段のチーム力が発揮できるか、変わって出場したメンバーが新たなチームケミストリーを起こしてくれるかが興味深かった。

バスケットボールのゲームでチームケミストリーを起こすにはどうしたらよいだろう。簡単に言えば、チームプレイに徹することだと思う。選手が個人プレイに走るとチームケミストリーは欠ける。チームプレイとは、ただ単にフォーメーションプレイをしたりすることではない。特にバスケットボールはカオス、ランダムな状態の中でゲームが行われる。そのような状況の中でも役割分担、チームのルールを明確にし、そしてチームワークが機能することで、チームは単なる個の集合体ではなく真の「チーム」となり、チームケミストリーが起こる。